

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法Ⅰ (2単位)	3. 科目番号	SSMP3442 SNMP3442 SCMP3442 SBMP3342
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	同一年度に公民科指導法Ⅱ (科目「倫理」「政治経済」を取り扱う) を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>公民科の目標は「現代の社会について主体的に考察させ、理解を深め、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」である。本科目では、学習指導要領で示される指導内容についての解説にとどまらず、授業実践事例について学ぶことで、受講生の公民科指導能力の成長を理論と実践の両面から支援することを目指す。</p> <p>さらに、「公共的な空間を作る主体」「他者と協働する倫理的主体」「持続可能な社会づくりの主体」として社会に参画する力を育む中核的な機能を果たすことが期待される今後の公民科のあり方(主権者教育など)についても取り上げる。</p> <p>なお公民科指導法Ⅰでは、公民科科目のうち、「公共(現代社会)」に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び公民科科目「公共(現代社会)」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができる。 2. 公共的な空間における基本的原理(民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務等)に関わる事象について理解し、説明することができる。 3. 公民科科目「公共(現代社会)」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「公共(現代社会)」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>講義内で模擬授業を発表します。その過程で学習指導案、教材等の作成に取り組むこととなりますが、これらをレポートとして評価します。</p> <p>第1-8回はリーディング・アサインメント(RA)を事前事後学習課題として配付します。授業内で解説することとなりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。</p> <p>模擬授業については、発表後検討会を行い、その後、振り返りレポートを提出することとなります。</p> <p>テーマ:「現代社会」の領域より、一つトピックを選定し、指導案を作成しなさい。</p> <p>※なお、トピックの重複を避けるため、講義内にて担当の振り分けを行います。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍。(以下、シラバス内ではテキストと呼称する。)</p> <p>【参考書】 1) 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012年。 2) 日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社、2009年。 ほか、各校検定済み教科用図書。</p> <p>【参考資料】 高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び公民科科目「公共(現代社会)」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができる。 2. 公共的な空間における基本的原理(民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務等)に関わる事象について理解し、説明することができる。 3. 公民科科目「公共(現代社会)」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「公共(現代社会)」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 <p>○評定の方法</p> <p>成績評価の規準1~4についての達成度を以下の方法により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各受講生の参加意欲・態度(課題の提出状況も含む)について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業(模擬授業やディスカッションなど)の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、作成した指導案・模擬授業の指導内容・レポートから評価する。(40%) 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生の多くは将来、高等学校教諭を志すと推察します。免許の取得には、実習が伴います。短期間の実習ですが、その間に実習先の生徒に有益な授業実践ができるように努めましょう。たとえ短期であっても教師に変わりはありません。免許を取得し、実際に教育機関へ勤務することになればそれ以上の責務を負うこととなります。本講義を通して、「学習者」としてだけでなく、「指導者」としての意識を併せ持つよう努力してください。「現代社会」は、この科目をもって、教科全体の目標を達成する教育内容として位置づけられています。「現代社会」についての理解が、公民科の他の科目である、政治経済・倫理の基礎となります。取り扱う教育内容領域は広いですが、興味や関心あるテーマからでかまいませんので学び続ける努力をしてください。</p> <p>また、本科目では教科指導を通して、いじめ問題、キャリアデザインといった課題を解決することを考えていきます。学外の研究団体との交流なども機会を設け、教室と現実社会のつながりを味わわせられる授業づくりを目指していきます。学外での授業発表の機会も計画しています。</p> <p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合 		

	<p>格となります。</p> <p>③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。</p> <p>④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。</p> <p>また、教員は次のことを実行します</p> <p>①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話（メール・通話）の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。</p>
--	---

13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応します。toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 時間割判明後、講義内にて案内します。
-------------	---

14. 授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1)オリエンテーション(シラバス確認しますので準備してください。コピーなど可。) 2)公民科教育の意義を考える 課題:「現代社会」に期待されていることは何だろう。	事前学習	テキスト pp. 1-5. (改訂の経緯と教科目標)を読む。また、教育実習を経験した受講者は、実習記録など見直し、授業実践がどのように展開されていたか復習しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント(以下RAと表記:講義内で配布する事前事後学習用ワークシート)に取り組む。
第2回	公民科指導の性質①(歴史的経緯について) 課題:第二次世界大戦後の学習指導要領における公民科の位置づけについて理解する。	事前学習	課題①:教育基本法より、公民科に関係する箇所・条文を見つけよう。課題②:戦後に登場した高校社会科はどのような内容であったのかまとめてみよう。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第3回	公民科指導の性質②(現行学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(a)学習指導要領・教科の位置付け・現代社会の目標・内容について理解する。	事前学習	教科の目標、科目現代社会の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第4回	1)公民科指導の性質③(現行学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(b)指導計画の作成と指導上の配慮事項について整理する。 2)模擬授業の構想①担当分野を選定する。	事前学習	各々、授業で取り上げる分野を考え、どのような授業を試みたいか、グループ検討会で意見交換できるように下調べしておくこと。その際、説明資料が充実していれば、自身の提案する授業案が採択されやすくなることもある。
		事後学習	各グループで作業スケジュールを策定し、各々の担当の業務について取り組みを始める。
第5回	1)公民科における学習指導案と授業計画 課題:策定の実際について事例指導案を手がかりにポイントを確認する。 2)模擬授業の構想②授業教材の開発	事前学習	第4回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるように準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。
第6回	現代社会の取り扱う「私たちの生きる社会」(学習内容の実際と教材研究の方向性を探究する) 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第7回	現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」(学習内容の実際と教材研究の方向性を探究する) 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第8回	現代社会の取り扱う「共に生きる社会を目指して」(学習内容の実際と教材研究の方向性を探究する) 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第9回	1)公民科指導の性質④(現行学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(c)公民科の「接続」について(生活科から社会科へ、社会科から公民科へ、カリキュラムの考え方) 2)模擬授業の構想③授業教材の開発	事前学習	第5回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるように準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第10回	1)公民科指導の性質⑤(現行学習指導要領および次期学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(d)公民科における評価の手法(「評価」の考え方、方法論) 2)模擬授業の構想④テーマ指導案構想発表 ※学外発表実施の場合は発表予行練習としてプレゼンテーションの内容と資料の検討を行う。	事前学習	自グループの授業構想について見直し、改善の余地はないか検討しておく。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第11回	1)公民科指導の性質⑥(現行学習指導要領	事前学習	RAにより持続可能な開発のための教育の考え方について

	および次期学習指導要領について) 課題：公民科における持続可能な開発のための教育実践の在り方 2) 模擬授業の構想⑤指導案構想発表を受けての授業改善 (指導案を中心に)		整理する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第12回	1) 公民科指導の性質⑦ (現行学習指導要領および次期学習指導要領について) 課題：公民科における主権者教育の在り方 および ICT 活用 2) 模擬授業の構想⑥指導案構想発表を受けての授業改善 (使用教材を中心に)	事前学習	RAにより18歳選挙権を中心に主権者教育の課題について考える。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第13回	授業プレゼンテーション (学生発表①)・検討会 「青年期と自己の形成」「個人の尊重と法の支配」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第14回	授業プレゼンテーション (学生発表②)・検討会 「現代の民主政治と政治参加の意義」「現代の経済社会と経済活動の在り方」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第15回	授業プレゼンテーション (学生発表③)・検討会 「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」 ※授業評価 (本講義についての学生評価)	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。